



Title	Activities '07 活動はいつも実験中
Author(s)	
Citation	Communication-Design. 2008, 1, p. 18-25
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/3513
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2

Activities '07

活動はいつも実験中

右記の一覧は2007年度におけるコミュニケーションデザイン・センターの活動。一見、独立しているように見える個々の活動ですが、人材育成・研究・社会学連携などを見据えながら、相互に触発・連携しています。3つの活動をピックアップしてみました。

あ・お
 アート&テクノロジー：知術デリバリープロジェクト
 アート・アーカイブス概論
 アート・プロジェクト入門
 いちよう祭オープンラボツアー
 医療ADR研究会
 医療安全実務者との医療事故研究会
 医療環境のデザインプロジェクト
 医療コンフリクトマネジメント：医療メディエーター養成講座
 医療対人関係論
 ウェブサイトデザイン
 映像アーカイヴ
 エンタテインメントコンピューティング2007（EC2007）実行委員会・イベントデザイン
 大阪大学サイエンスショップ・プロジェクト [p125, p143]
 オレンジカフェ・プロジェクト
 オレンジサーバー
 オレンジショップ・インテリアデザイン
 オレンジブック・プロジェクト

か・こ
 外国人サポーター 1,000人育成プロジェクト
 科学技術コミュニケーションに関するメディア研究 [p159]
 科学技術コミュニケーション入門
 科学技術コミュニケーションの理論と実践 [p107]
 科学技術に関する「公共コミュニケーション」を支援するための研究（科学技術振興機構受託研究）
 科学技術に関する参加型テクノロジーアセスメントに関するワークショップ
 CASiFiCA（Case Station-Field Campus）
 がん患者への認知行動療法に基づく介入プログラム開発に関する研究
 季刊『プラグ』
 基礎ゼミ「コミュニケーションデザインコーディネーター入門」
 芸術とコミュニケーションに関する実践的研究（日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業）
 芸術と福祉国際会議実行委員会事務局
 研究倫理
 現場力研究会 [p203]
 減災Cafe & Tour
 減災コミュニケーション入門
 原子力に関する進化型対話場の設計と実行に関する調査研究
 現場力と実践知
 広報物アートディレクション

コミュニケーションデザイン研究会
 コンフリクトマネジメント研究会：医療にとどまらない紛争研究会

さ・そ
 サイエンスカフェのコミュニケーションデザイン（研究者情報発信活動推進モデル開発）
 サイエンスショップにおける臨床研究の可能性
 市民と専門家の熟議と協働のための手法とインタフェイス組織の開発（社会技術研究開発センター）
 シラバスデザイン
 1970年代の思想の遺産の再検討—科学技術社会論の視覚から
 sensecape Project
 先端統合デザイン特論
 船場アートカフェ・プロジェクト

た・と
 智恵のひろば
 ディスコミュニケーションの理論と実践
 定点観測型研究
 データハンダイ [p59]
 デザイン史デザイン学国際会議 ICDHS 2008 OSAKA プロジェクト
 デザインプロジェクト [p181]
 デザイン文理学プロジェクト
 突発災害研究

な・の
中之島コミュニケーションカフェ・プロジェクト：「ラボカフェ/ハイブリッド・ショーケース」
 日本のリスクガバナンス・システムの実態解明と再構築の提言（日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究事業）

は・ほ
 パフォーミングアーツの世界
 ハンダイ談話会
 ピース・キーピング・デザイン・プロジェクト
 〈表現としての身体〉研究会
 フォトニクス先端融合研究センターとの共同研究
 フォント環境整備プロジェクト
 復興デザイン研究会
 プロジェクタ・プロジェクト
 プロジェクト活用型科学技術キャリア創生モデル事業（科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業）
 文理融合創造ゼミナール

ま・も
 ミュージアムデザイン研究会
 名刺デザイン
メディア技法と表現リテラシー [p83]

ら・る
 リーフレットデザイン
 リノベーションまちづくりデザイン
 臨床コミュニケーションⅠ
 臨床コミュニケーションⅡ

CSCD 科目「メディア技法と表現リテラシー」

人材育成／教育プログラム

「自己表現が苦手だな」「デザインって難しいな」と日頃、思っていないですか？

そんな学生たちを主なターゲットに、表現することの楽しさを実感して欲しい——
そうした目的からこの授業は「コミュニケーションデザイン科目」の入り口として開講されています。もちろん、プレゼンテーション能力が急に向上するとか、瞬間に雄弁になったりはしません。そうした目先のスキルよりも、むしろ、表現とは何か、デザインとは何か、これからの研究者にとって要求されるコミュニケーション能力とは何かといった根源的な考え方に触れることがこの授業の第一の目的です。

実際の教室では、情報プログラミング、グラフィックデザイン、身体芸術、環境デザイン、映像、演出家などの専門家による体験型ワークショップ形式の授業が順に行われます。こうした実際の作業の過程を体感しながら、芸術家やデザイナーは、一体どんな発想、どんな筋道で物事を考え、作品や製品に結びつけていくのかを理解する。こうしたことが、コミュニケーションの力、新しい教養の力を育むことにつながるでしょう。

Pick Up

『市販のビデオカメラを使って
1分間ビデオ作品をつくってみる。』

ルールは、総時間数1分、ビデオカメラの録画ボタンのオンオフだけでカットを切る、撮り直しなし、音声なし。まず、3名1グループに1台のビデオカメラが割り当てられ、与えられたテーマについて何を撮るかを相談。シナリオ原案ができれば、撮影にでかける。次の回では、この無音の映像作品を上映しながら、声や語り、その場にあるものを使ってリアルタイムで「音声」をつける。音素材は何をつかってもいい。映像を見ながら1時間の作戦会議をした後、グループ毎に、映像＋音響パフォーマンスを見せ合う。

パソコンやビデオカメラの編集機能をいっさい使わずに、1分間という時間制限とカットのつなぎだけで映像作品を作る——これを体感することで、「表現」と「技術」の粹組み、そして「メディア」というものを自由な発想から捉え直したり、ある制約のなかに無限の自由を発見したりすることが狙いとなっている。

※「メディアコミュニケーション」担当：久保田テツ＋本間直樹



Data

名称	メディア技法と表現リテラシー
期間	第1学期 豊中：隔週火曜 6-7限 第2学期 吹田：隔週木曜 6-7限
場所	豊中キャンパス：基礎工学部1棟オレンジショップ 吹田キャンパス：人間科学部 207講義室他
ひと	担当教員：平田オリザ、志賀玲子、本間直樹、伊藤京子、 久保田テツ、花村周寛、清水良介 受講者：全研究科大学院学生、社会人（計30名）
単位数	2単位

○授業プログラム

1. オリエンテーション・授業内容紹介・コミュニケーションゲーム
2. コンピュータテキストで何を伝えるか？
3. デザイナーに何を伝えればよいか？
4. 身体と環境
5. メディアコミュニケーション（映像編）
6. メディアコミュニケーション（音楽編）
7. 演劇ワークショップ
8. まとめ



中之島コミュニケーションカフェ 2007 ex-station 可能性の駅

社会学連携 活動

大学の知の蓄積をなんとか社会に開いていくことはできないものか——
そう思案していたCSCDに、京阪電鉄から「中之島新線の新しい駅で何かやってみませんか」と誘いの声が届きました。

新駅（なにわ橋駅）が位置する大阪府中之島は大阪大学が生まれたゆかりの地です。そこに、新しいコミュニティ空間としてさまざまな話題について語りあうカフェを開き、誰でも興味に応じて参加自由な知的空間を創り出してはどうか。平日の夕方、あるいは週末の昼間にカフェに集り、「哲学カフェ」ほかサイエンスや経済をテーマに市民が対等に話し合う場をデザインしてみよう。また、新駅の立地はオフィス街であるから、乗降客の減る週末には、ここをアートスペースと位置づけて、ダンスやパフォーマンスなどを催そう…。

こうした夢を実現するための試行実験として、京阪電鉄、CSCD、NPOが協力しあい、2006年から「中之島コミュニケーションカフェプロジェクト」が始動しました。

2007年10月には、CSCDプロデュースのもと、地上部分には工事現場の資材を利用した対話カフェの実験「ラボカフェ」が開かれ、地下30メートルの工事現場ではファッションショーが華々しく繰り広げられました。



Data

名称 中之島コミュニケーションカフェ 2007 ex-station 可能性の駅
「ラボカフェ・プロジェクト」「ハイブリッド・ショーケース」
期間 2007年10月12日～14日
場所 大阪府中之島公園内京阪電鉄現場地内
ひと 代表：平田オリザ、総括：木ノ下智恵子、空間：花村周寛、
広報：清水良介、映像：久保田テツ

主催＝中之島活性化実行委員会（主管事務局：国土交通省 近畿運輸局企画
観光部）、中之島コミュニケーションカフェ 2007プロジェクト
企画・運営＝大阪大学コミュニケーションデザイン・センター／NPO 法人
DANCE BOX／船場アートカフェ（大阪市立大学都市研究プラザ）他

Pick Up

学生プレゼンテーション
「阪大生による駅でのアートイベントの可能性」

理工系から文系まで、専門が多岐にわたる学生22名が履修し、「アートをつかった新しい駅の使い方を提案すること」を課題にグループで企画を考えた。履修者5グループ中二つが発表し、自分たちの企画が社会でどのように受け止められるかを問うた。

提案された内容は、「カップルの愛」と「駅で待つ」をテーマにした二つ。「公共の面前で愛を語るのはちょっと…という参加者の声を聞いて、自分たちのアイデアが一方向的なものだったかもしれないと考え直した」「実際に発表の場に立つことで企画がどう進むのかが体感できた」とチャレンジした学生の手応えもまずまず。

教室の外で実社会に晒されて考える、という教育の場が提供されるだけでなく、学生の体当たりの提案を見聞きして、一般利用者の駅に対する見方・関わり方が変わるなど、パブリックな場に対して市民が意見をいえる仕掛けの提案ともなっている。

※コミュニケーションデザイン科目
「アート・プロジェクト入門／アートイベント企画ワークショップ」



コミュニケーションデザイン研究会

研究活動

Data

名称 コミュニケーションデザイン研究会
期間 毎月1回水曜午後
場所 日本万博記念機構ビル2F CSCD 会議室
ひと CSCD 教員

専門の垣根を越えた大学院教育をどのようにつくっていくのか？

社会と連携した知のあり方はどうあるべきか？

そして、コミュニケーションデザインとは何か？

多種多様な背景をもつ教員たちが、月に一度顔を合わせ、学内外での個々の研究・社会活動を順に発表しあい、意見をたたかわせるコミュニケーションデザインのフォーラム。「コミュニケーション」「デザイン」「研究」「教育」……これら言葉のどれをとっても、人によって理解の仕方が異なります。

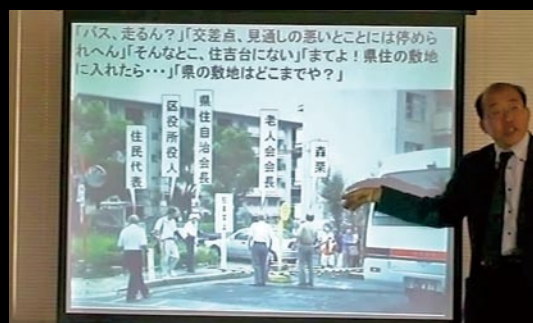
この研究会のやり方はただ一つ、第一線で活躍する一人一人の手で言葉の「リレー」を続けること。2006年には、社会のなかで大学がどのような役割を果たすのかという点から、CSCDのあるべき姿が協議され、2007年は、「コミュニケーションデザイン科目」の内容をもとに、「高度教養教育」にどのような可能性があるのか、プロダクトデザインからプログラムデザインまで、デザイン実践をどのように言語化していくのか、そして、さまざまな先行事例から「社会学連携」と呼ばれる活動をどのように考えていけばよいのか、について議論がなされました。（このリレーの一部は特集Part 3でもお見せします）

この研究会の映像記録は以下で公開中
<http://cscd.jp/archives/>



Pick Up

「住民協働と事業者協働の
コーディネーション方法と手法」 森栗茂一



工学や土木などの領域以外の専門家としては異例のモビリティ・マネジメントの第一人者として、現在、各地の交通まちづくり（交通まちコミュニケーション）をコーディネートする森栗さん。研究会では、住吉台（神戸市東灘区）での住民協働型地域公共交通「住吉くるくるバス」のコーディネーション方法と手法が紹介された。住民協働型事業に必要なのは「ビジョン」、情報公開（共有）、そして机上ではない現場での議論。一方、コーディネーターとしては小さな声も聞き逃さないこと、身を引くタイミングを読み違えないように関わるなど、実践者だからそのノウハウと提唱もあった。いわゆる「ハコモノ」行政に対する批判が高まるなか、合意形成、住民協働による目的の達成によって、住民のライフスタイルや意識までもが変わり、まち育てへと発展したこの「くるくるバス」の方式をモデルにした事業が、全国各地で動きは始めている。

